

現代文の勉強のスケジュール

1年間の受験勉強を想定したときの、理想的な現代文の勉強のスケジュールを考えてみたいと思います。自身の勉強の参考にしてみてください。

① 1学期

センター試験の問題を中心に、丁寧に取り組む。

- ・時間を計る必要はない。**時間無制限で解き、自分の頭でしっかり考える。**
- ・焦らず、「量より質」の姿勢で学習するべき。
- ・国立型の人は、センターの問題を記述問題にすり替え、自分で記述解答を書いてみると良い。80字が目安。

② 夏休み

1学期に解いた問題を再び解き直す。さらに、必要に応じて、漢字・語彙などの基本的な力を増強する。

- ・「一度解いた問題をもう一度解くのは意味あるの?」と思う人もいるかもしれないが、実は、非常に大きな意味を持っている。一度解いてから1カ月以上が経過すると、意外かもしれないが、本文の内容や答えの選択肢の内容の記憶がすいぶんと抜けて、まるで初見の問題を解くかのように再チャレンジすることが出来るのだ。「初見のような感覚で解き」ながらも、「既に学習した解答プロセスで解ける」ので、解答プロセスが身に付いているかどうかをハッキリ確認出来るのだ。かなり有意義な演習が出来るというわけだ。

③ 2学期以降

試験本番を想定し、制限時間の中で解く練習を積む。「いかにして解くスピードを上げるか」を追求する。

- ・それでもやはり、制限時間内に解いた後に、時間無制限で熟考するという作業もするべき。(二段階方式)
- ・出来るだけ「現代文・古文・漢文」の3セットで解き、国語全体としての点数の上げ方を考えるようにする。
- ・解法についての不安が少しでも出てきたり、はたまたスランプに陥ったりした場合は、早急に今まで解いた問題の中から復習をやりこんだもの(○)お気に入りのものを取り出し、もう1度徹底的に復習してみること。
- ・二次試験で国語がある人は、この時期から少しずつ二次試験の過去問に挑戦する。

④ 冬休み〜直前期

今まで解いた問題を、必要なものから順に再び解き直していく。

- ・直前期だからと言ってたくさん問題を解くのではなく、直前期だから**今まで解いてきた問題を徹底的に復習する**べき。そして、本番、今まで解いた問題と完全に同じタイプの問題が出たときに自信を持って正答に至れるようにしたい。

※その他の注意点

・学校の授業での学習、模試の復習もしっかりとこなしていく。

・センター試験を受ける人は、過去問10年分はこなしておきたい。特に、次の年度はお薦め。(易しい順に記載)

評論 ↓ 01年、08年、07年、11年

小説 ↓ 14年、08年、05年、12年

・何よりも、「現代文をやるべき」という意識をしっかりと持つことが最重要だ。